韓国日本語学会 ニュースレター

[2020-02]

発行人: 黄永熙 / 編集人: 國生和美 / 発行所: 韓国日本語学会 / 発行日: 2020.11.01.

ご挨拶	2
オンライン国際学術大会を終えて	3
日本語学研究・教育に関するニュース	5
役員名簿	6
常任理事会	11
会員情報	12
その他の学会ニュース	14
学術大会結果報告	15
連携協力研究会活動報告	16
編集委員会	19
『日本語學研究』論文投稿案内	22
学会ホームページ案内	28

〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室
http://www.jlak.or.kr
(研究編集事務局長: 朴慧眞) 010-7450-4055
(学術事業企画事務局長: 張允娥) 010-2893-2042
(教育広報事務局長: 中村有里) 010-7457-7001

ご挨拶

韓国日本語学会の事業企画副会長を務めております聖潔大学の李埈瑞と申します。

今年の初めに突如現れたコロナウイルスによる事態の余波は、我々、韓国日本語学会にも直接・間接的に多くの影響を及ぼしています。毎学期、開催されていた国際学術大会もオンラインで縮小運営となり、学会において多数企画していたほぼすべての事業がキャンセルあるいは無期限延期となりました。

特に私たちの学会と直接関連のある日本との国家レベルな人的交流のブロックは、1965 年の日韓国交正常化以降、未曾有の事態であるといえます。当初、今年予定されていた東京オリンピックの延期は誰にも予想できないことであり、史上最高の就職率を更新している日本は、韓国青年求職者にとって良質の雇用を見つけることができる希望の基盤でもありましたが、それさえもビザの発給が停止され、これに関係されている会員の皆さまの悩みも尽きないであろうと思われます。

しかし、「雨降って地固まる」という表現は、このような状況で使用してもよいのか分かりませんが、どれだけ長い梅雨でも晴天を予告しているように、コロナウイルスもまもなくワクチンが開発され、流行性ウイルスになる日が訪れることを確信しています。

これから本格的にコロナ以降のポストコロナ時代に備えなければならない時だと思います。

当学会では、京畿道雇用財団と協業関係を結びながら、一般市民を対象に学問の底辺拡大を図っており、日本の有数企業と連携した海外就職連携事業に積極的に参加し、所期の成果も達成しています。また、研究的な側面でも、AI ビッグデータ時代に対応して、日本語を中心とした融合企画研究にも学会レベルで拍車をかけています。

会員の皆さま、

コロナウイルスも終わりに向かっているようです。雨の後、基礎がより固まるように、ポストコロナ時代において我々韓国日本語学会が先導を切っていくでしょう。

オンライン国際学術大会を終えて

[新たな時代・新たな方式・新たな覚悟]

会員の皆さま、こんにちは。韓国日本語学会の学術副会長を務めております郭銀心と申します。

私は、学術チームで活動してから 3 年目となりましたが、これまで学会活動をしてきた中で、去る第 41、42 回統合学術大会での経験は非常に貴重な資産となりました。

オンライン講義が日常化され、対面での集まりが制限される状況で、各学会ごとに学術大会の開催方法において多大なるご苦労があったと思います。 私たち韓国日本語学会も設立以来、初のオンライン方式を採用し、学術大会を開催することになりました。「オフラインをオンラインに変えるだけだから準備に大して違いはないだろう」と最初は安易に考えていました。しかし、実際に作業をしてみると、オフラインよりも気を使わなければならない部分が多く、通常よりも役員との緊密な協力が必要であることに気がつきました。

黄永熙会長を筆頭に、すべての役員が力を合わせた結果、成功裡にオンライン学術大会を終えることができました。そしてこの結果は、何よりも学会会員の皆さまのご声援とご協力があったからこそ実現することができました。遅ればせながら、心から感謝申し上げます。また、学術大会を終えて不十分だった点、至らなかった点などが心残りで、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

前回の学術大会は、初めて開催されたオンライン大会でありながら、次のような意義が大きかったと思われます。

大会のテーマとして提示しましたように、ICT 技術と融合した日本語学研究の最前線を紹介する学術の場となりました。国内外の優れた研究者を介して、機械翻訳、計量テキスト分析、データマイニング分野における最新の研究に接することができましたし、日本語学研究が今後進むべき方向性を模索することのできる機会となりました。そして、日本語学及び、日本語教育研究が、もはや「私たちだけの狭い世界」に閉じ込められているのではなく、様々な学問領域と融合して発展していくことができるということを示唆してくれました。この成果は、私たち韓国日本語学会が学際性を備えた専門学会として新たな一歩を踏み出したことを意味しています。今後も多様な分野の研究者を招聘し、「参加したい学術の場」になるよう、学術チームが一丸となって最善を尽くしたいと思います。

このように盛況のうちに幕を閉じたオンライン大会でしたが、心残りもあります。それは研究者間の人的交流です。目まぐるしい日常の中で時間を割いて参加する既存の大会は、発表後の質疑討論、閉会後の交流を通じて学術情報の交換だけでなく、気楽に世間話を楽しめる場でもありました。オンライン大会は物理的な制約がないという利点はありますが、学術大会におけるもう一つの本質が抜けてしまったことは残念で仕方ありません。しかし、オンライン大会が学術交流の場として十分な役割を果たしたことは確かです。国外からは、日本、中国、台湾の研究者の方々がご参加くださり、国内でも多くの方々にアクセスいただき、活発な議論が行われました。

私たちは現在、来年の状況を見据えることのできない初めての事態を迎えています。ところが、果たしてオンライン方式の学術大会が現状に合わせた一時的な形式なのか、それともこの方法が空間的・距離的制約を超え、新しい時代に合わせた学術大会に発展するのかについてはまだ予測できません。オフラインとオンラインの利点を活かした価値のある学術の場を準備するための努力は続けていかなければならないでしょう。今こそ、私たち研究者がすべての知恵を集結すべき転機ではないかと思います。「私たちの頃はね」という言葉をつい口にしてしまうのではないかと心配になる今日この頃です。新しい時代に適応できる柔軟性と努力が必要であるということを切実に感じながら、筆を置きたいと思います。

日本語学研究・教育に関するニュース

去る9月26日「第2回気軽に日本語お茶会 in the world」が zoom で開催されました。

この日は韓国、ドイツ、タイ、ミャンマー、台湾の学習者、そして、日本人ゲストの合計25名が同時に接続し「好きな食べ物・飲み物」をテーマに日本語で語り合いました。

各国の初めて聞く料理名が飛び出すと、言葉だけではなく料理の画像を検索して画面共有したり、材料やレシピの説明に言葉が詰まると、チャットや辞書、翻訳機などオンラインツールを駆使したりしながらなんとか伝え合おうとする姿が印象的でした。

移動が制限される中、自国にいながら学習している日本語を共通言語に多様な人々とコミュニケーションし、新しい文化に触れることで空間を超えたつながりを感じられる時間でした。

参加者からは「いろんな国の友達と一緒に日本語で会話をするなんて新鮮だった」「日本というつながりがあったので、お互いに共感しあいながら楽しく話ができた」など多数の喜びの感想が寄せられました。また、1回目開催時に行った事後アンケートも満足度が大変高く、参加者の 100%が次回も参加したいと回答してくれました。

時差のため各地域から参加しやすい時間帯を設定することに多少難しさを感じるものの、今後もこのような機会を設けることで、日本語の輪を広げ、学びの喜びを感じてもらえることを切に願います。

次回は12月にクリスマス会を開催予定です。ご参加をご希望の方は、Facebook「気軽に日本語お茶会 in the world」をご参照ください。

教育広報　副会長　角 ゆりか

役員名簿

■常任理事

役職		氏名	所属	E-mail
会長		黃永熙	漢陽サイバー大学	tohyh@hanmail.net
副会長	研究	盧姓鉉	德成女子大学	chel99@hanmail.net
	編集	蔡盛植	高麗大学	csshhs@korea.ac.kr
	学術	郭銀心	京畿大学	kwak5017@naver.com
	事業企画	李埈瑞	聖潔大学	korjs2@gmail.com
	教育広報	角ゆりか	明知大学	whitelily1227@hotmail.co.jp
総務理事	研究編集	朴孝庚	漢陽サイバー大学	phk0502@hanmail.net
	学術事業企画	孫栄奭	済州大学	freewill1472@naver.com
	教育広報	魚住泰子	仁川大学	tacchu.j@gmail.com
財務理事		殷守希	淑明女子大学	esh0407@naver.com
評価理事		梁乃允	中央大学	ynaeyun@hanmail.net
学術理事		金義泳	ハンバッ大学	cara202@gmail.com
		金惠娟	聖潔大学	mahou@hanmail.net
		朴江訓	全州大学	hun0531@naver.com
		白以然	高麗大学	thyako@hanmail.net
編集理事		朴善玉	大眞大学	psoibm@hanmail.net
		兪樹延	全南大学	tokyoforeign@hanmail.net
		尹榮珉	延世大学	marchen52@naver.com
		李粋昺	嘉泉大学	suhyang1022@naver.com
出版理事		崔裕京	漢陽女子大学	ykchoi@hanmail.com
情報理事		李相怡	明知専門大学	zzivi@hanmail.net
広報理事		國生和美	東國大学	kazumi0121@naver.com
国際交流理事	日本	金廷珉	亜細亜大学	kjm0630@gmail.com
		朴秀娟	神戸大学	parksooyun@gmail.com
		尹智鉉	早稲田大学	yoon.jh.2030@gmail.com
		鄭惠先	北海道大学	jung@oia.hokudai.ac.jp
	中国	母育新	西安外国語大学	wuyuxin@xisu.edu.cn
		朱鵬霄	天津外国語大学	syuzpx@qq.com
		全紫蓮	慶尙大学	shizen9021@daum.net
	台湾	羅曉勤	台湾銘傳大学	hclo@mail.mcu.edu.tw
		河在必	釜山大学	hajp75@pusan.ac.kr
	オーストラリア	Lee, Duck-Yong	The Australian National Univ.	duck.lee@anu.edu.au

対外協力理事	ソウル	迫田亜希子	明知大学	as982095@gmail.com
	京畿	鄭榮美	韓国観光大学	youngmi0425@hotmail.com
	江原	高慧禎	カトリック関東大学	nunbusida@hanmail.net
	忠北	李忠奎	西原大学	ch4229@hanmail.net
	忠南	金玄珠	ハンバッ大学	khj15@hanbat.ac.kr
	慶北	李慈鎬	慶北大学	ljh2008@knu.ac.kr
	慶南	趙恩英	釜山外国語大学	choeun215@gmail.com
	全北	安志英	群山大学	ajy@kunsan.ac.kr
	全南	林禔映	全南大学	jy-lim@chonnam.ac.kr
	済州	高暎喜	済州大学	kyh080jp@gmail.com
	日本	金照雄	時事日本語社	marketing1@korea.com
事業企画理事		李舜炯	慶北大学	soonhl@knu.ac.kr
		趙宣映	仁川大学	huyuski@daum.net
事務局長	研究編集	朴慧眞	ソウル女子大学	maipark@naver.com
	学術事業企画	張允娥	延世大学	willyoubehere@gmail.com
	教育広報	中村有里	仁川大学	yoolee@inu.ac.kr
監事		文彰鶴	韓国外国語大学	kudosmoon@hanmail.net
		李承英	光云大学	sylee27@kw.ac.kr

■**一般理事**(国内:가나다順, 海外:五十音順)

〈国内〉		
検校裕朗(極東大)	姜炅完(大邱カトリック大)	高恩淑(韓國科學技術大學)
琴鍾愛(忠南大)	金東奎(韓国外大)	金平江(祥明大)
朴才煥(京畿大)	方允炯(水原大)	白同善(江原大)
酒井真弓(徳成女大)	朴良順(蔚山科學大)	朴英淑(水原科學大)
成玧妵(祥明大)	孫在賢(徳成女大)	宋殷美(白石大)
宋正植(仁荷工専)	辛銀真 (明知大)	梁敏鎬(釜慶大)
吳玹定(建國大)	元智恩(崇實大)	李東哲(新羅大)
張根壽(祥明大)	張元哉(啓明大)	鄭起永(釜山外大)
鄭相美(新羅大)	鄭夏俊(湖南大)	蔡京希(培花女大)
黃圭三(瑞逸大)		

〈海外〉		
阿部貴人(専修大学)	嵐洋子(杏林大学)	磯野英治(名古屋商科大学)
李在鎬(早稲田大学)	植松容子(昭和女子大学)	宇都木昭(名古屋大学)
大塚 薫(高知大学)	沖 裕子(信州大学)	荻野綱男(日本大学)
奥野由紀子(首都大学東京)	生越直樹(東京大学)	落合由治(台湾淡江大学)
金庭久美子(立教大学)	金 愛蘭(日本大学)	金智賢(宮崎大学)
金 蘭美(横浜国立大学)	倉持香(Volkshochschule Augsburg)	河野俊之(横浜国立大学)
白岩広行(立正大学)	全永男(中国延辺大学)	高木千恵(大阪大学)
Daniel Long(首都大学東京)	Tiziana CARPI(ミラノ大学)	CHUSRI,Asadayuth (チュラーロンコーン大学)
中山亜紀子(広島大学)	名嶋義直(琉球大学)	西川朋美(お茶の水女子大学)
野田尚史(国立国語研究所)	橋本直幸(福岡女子大学)	藤岡典子(シンシナティ大学)
松丸真大(滋賀大学)	村上敬一(徳島大学)	山内博之(実践女子大学)

■編集委員会(2020.1.1-2021.12.31)

委員長：曺英南 (高麗大学)

監事：尹榮珉 (延世大学)

音声学 音韻論	閔光準(建国大) 鄭炫赫(サイバー韓国外大) 戸田貴子(早稲田大学/日本) *高慧禎(カトリック関東大)	語用論 社会言語学	洪珉杓(啓明大) 荻野綱男(日本大学/日本) 生越直樹(東京大学/日本) 盧姓鉉(徳成女大) *鄭賢児(西京大)
通時論 形態論	張根壽(祥明大) 裵銀貞(釜山外大) 金廷珉 (亜細亜大学/日本) Lee,Duck-Yong (The Australian National Univ./豪州) *朴江訓(全州大)	日本語教育	落合由治(淡江大学/台湾) 李美淑(明知大) 李恩美 (明知大) 鄭相美(新羅大) *金義泳 (ハンバッ大) 倉持香(Volkshochschule Augsburg/ドイツ)
意味論 語彙論	*李慈鎬(慶北大) 張元哉(啓明大) 李羽濟(白石藝大)	日本語史	羅工洙(嶺南大) 林禔映(全南大) * 朴孝庚(漢陽サイバー大)
その他 日本語学	李朱利愛(梨花女大) 盛文忠(上海外国語大学/中国) 鄭惠先(北海道大学/日本) *辛銀眞(明知大)	◆「*」は、実務担当編集委員(実務委員) そのほかは審査担当編集委員(査読委員)である。	

■研究倫理委員会

委員長	盧姓鉉 (德成女子大学)
委員	姜炅完 (大邱カトリック大学), 朴江訓 (全州大学), 酒井真弓 (德成女子大学), 梁敏鎬 (釜慶大学), 張良光 (カトリック大学)

■学術研究発展委員会

委員長	高慧禎 (カトリック関東大学)
委員	朴海煥(淑明女子大学), Lee, Duck-Yong (The Australian National Univ.), 李承英 (光云大学), 全紫蓮 (慶尙大学), 洪珉杓 (啓明大学)

■学術誌発展委員会

委員長	李恩美 (明知大学)
委員	朴江訓 (全州大学), 朴孝庚 (漢陽サイバー大学), 曺英南 (高麗大学) , 蔡盛植 (高麗大学), 洪珉杓 (啓明大学)

■日本語教育発展委員会

委員長	角ゆりか(明知大学)
委員	金志宣(梨花女子大学), 中村有里(仁川大学), 持田祐美子(平澤大学), 迫田亜希子(明知大学) , 川口慶子(崇實大学), 小島堅嗣(培材大学)

■学術賞選定委員会

委員長	洪珉杓 (啓明大学)
委員	姜錫祐 (カトリック大学), 朴海煥 (淑明女子大学) , 李暻洙 (韓國放送通信大学), 李恩美 (明知大学), 曺英南 (高麗大学)

■学会発展基金委員会

委員長	李埈瑞(聖潔大学)
委員	高慧禎 (カトリック関東大学), 金惠娟(聖潔大学), 南得鉉(明知専門大), 崔正勲 (CS インターナショナル)

■諮問委員会

監事	姜錫祐 (カトリック大学)
委員	康仁善 (聖公會大学), 金玉任(誠信女子大学), 盧明姬(東國大学), 閔光準 (建國大学), 朴海煥 (淑明女子大学), 李暻洙 (韓國放送通信大学), 李範錫 (カトリック大学), 李漢燮 (高麗大学) , 尹幸舜 (ハンバッ大学), 鄭相哲 (韓国外国語大学), 洪珉杓 (啓明大学)

常任理事会

＊第四次　常任理事会

(2020 年 8 月 20 日(木) 16:00 ZOOM　オンライン会議)

1. 学術･事業企画　関連報告

- 国際学術大会(9 月)プログラムの詳細を確認

- 国際学術大会(9 月)シミュレーションの日程について

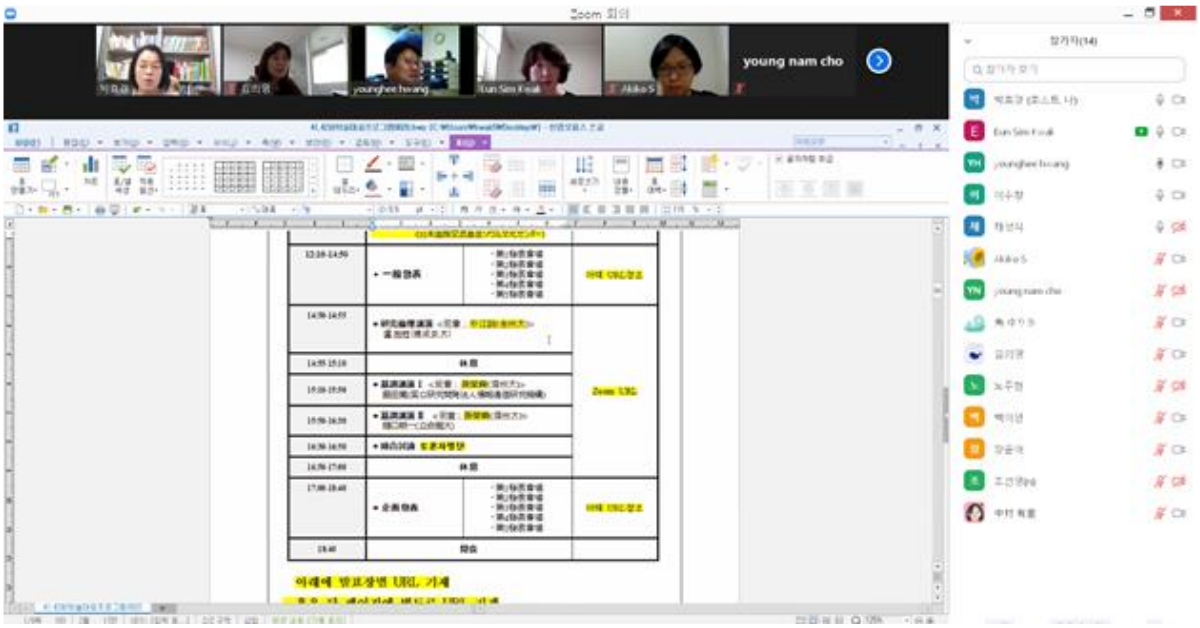
2. 編集　関連報告

- 第 65 輯『日本語学研究』発行　進行状況の報告

- JAMS 関連、登録事項の確認

3. その他

- 国立国語研究所(日本)NINJAL チュートリアル ZOOM を用いたオンライン開催の案内について



会員情報

○ 出版

著書名：『民主的シティズンシップの育て方』
著者：名嶋義直 編著
出版社：ひつじ書房
出版日：2019-10

著書名：『10 代からの批判的思考 社会を変える9つのヒント』
著者：名嶋義直 編著
出版社：明石書店
出版日：2020-05

著書名：『右翼ポピュリズムに抗する市民性教育』
著者：名嶋義直・神田靖子 編著
出版社：明石書店
出版日：2020-05

教材名：『言語景観から学ぶ日本語』
著者：磯野英治
出版社：大修館書店
出版日：2020-09

○ 任用及び転任

大谷鉄平 会員
長崎外国語大学　特別任用講師(～2020.03)
北陸大学　国際交流センター　専任講師(2020.04～)

河在必 会員
釜山大学 日語日文学科 助教授(2020.03～)

○ 訃報

本学会前会長 李吉鎔教授が、病気療養中の処、8 月 25 日に永眠いたしました。

ここに、生前のご厚誼に感謝申し上げ、謹んでご通知申し上げます。

お墓は、安城追慕公園(안성추모공원)の一角でございます。

○ 事務局

〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室

http://www.jlak.or.kr

(研究編集事務局長: 朴慧眞) 010-7450-4055

(学術事業企画事務局長: 張允娥) 010-2893-2042

(教育広報事務局長: 中村有里) 010-7457-7001

jlak123@hanmail.net

● 審査料及び掲載料の納付先

국민은행(kookmin Bank) 014301-00-002268

은수희(한국일본어학회) 殷守希(韓国日本語学会)

・ 個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に記載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌 (학술지)よりダウンロードできますのでご利用ください。

その他の学会ニュース

1. 国立国語研究所(日本)・韓国日語教育学会・韓国日本語学会NINJALチュートリアルの共同開催

2020年10月10日(土)、11日(日)ZOOMを使用した、NINJALチュートリアルが開催されました。
石黒圭先生による「日本語学習者の作文の研究方法」、小磯花江先生による「コーパスを活用した日常会話の研究」というテーマで、日本語教育の実践と最新の研究方法について学ぶ時間となりました。

2. 日本語学会(日本) 会長・韓国日本語学会会長対談

去る10月24日(土)、25日(日)に開催された日本語学会(日本)におきまして、 日本語学会(日本)の金水敏会長と韓国日本語学会の黄永熙会長が史上初となる対談の場を持ちました。
対談の様子は日本語学会公式YouTubeチャンネルにて一般公開しております。
https://www.youtube.com/watch?v=rS-cwUkdjq4&feature=youtube

3. 2021年3月 学術大会開催(予定)

2021年3月20日(土) 高麗大学(予定)にて、第43回 韓国日本語学会・連携協力研究会合同学術大会を開催する予定です。ご発表を希望される方は、 jlak_study@naver.com (学術理事) まで、お申し込みくださいますよう、お願いいたします。

学術大会結果報告

【 第41･42回 国際学術大会 結果報告 】

○ 日時：2020年 9月 19日(土)

○ 場所：漢陽Cyber大学校 HIT 310號(ZOOMを利用したオンライン学術大会)

○ “ICT技術と融合する日本語学研究のフロンティア”というテーマで、国立研究開発法人情報通信機構の藤田篤先生ならびに、立命館大学の樋口耕一先生の招聘講演が行われました。317名の会員の皆様にご参加いただき、成功裡に終了しました。

○ 漢陽Cyber大学校のご協力に感謝申し上げます。

韓國日本語學會
第41·42回 國際學術發表大會論文集
Proceedings of the 41·42th General Meeting of the JLAK
September 19, 2020

ICT기술과 융합하는 일본어학연구의 프런티어
ICT技術と融合する日本語学研究のフロンティア

2020년 9월 19일(토)
한양Cyber대학교 (ZOOM을 이용한 온라인 학술대회)

주최 : 한국일본어학회· 한양Cyber대학교 · 한국일본어연구회 ·
일한커뮤니케이션연구회 · 한국OPI연구회
주관 : 한국일본어학회
후원 : 한양Cyber대학교 산학협력단 · JAPAN FOUNDATION SEOUL · 시사일본어사

韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

連携協力研究会

🕮 韓国日本語研究会 🕮

＜韓国日本語研究会　第 13 回　研究会＞

■第 41, 42 回　韓国日本語学会学術大会との合同開催

■日時: 2020 年 9 月 19 日(土) 17:00～18:40(ZOOM を用いたオンライン会議)

■発表コンセプト: 新進研究者による博士学位論文の発表

▸ 権槿玲 (高麗大)

『日本語における主観性及び間主観性の考察 -省略と明示を対象として-』(2020.2.(高麗大))

■関連案内: 研究会カフェ(http://cafe.daum.net/-KJS-) 参照(日程の詳細、発表要旨など登載)

🕮 韓国継承日本語教育研究会 🕮

韓国継承日本語教育研究会からのお知らせ

近年の継承日本語教育の動向

継承日本語教育は外国語としての日本語とは異なり、日本にルーツを持つ子どもたちが多文化社会に生きるための日本語に関する教育として近年注目されてきています。

日本においても今年閣議決定された日本語教育推進法において、2 年にわたって続けてきた継承日本語教育関係者の方々の要請活動の結果、「海外に移住した邦人の子孫、外国人と日本人を両親に持つ子に対する日本語教育環境について、国際交流基金を通じ、日本語学習の形態、日本語教育を行う機関の現状や課題等、その実態の把握に努め、現地の日本語教育を行う機関等と連携しつつ必要な支援を実施する。」[1]といった継承日本語教育に関する内容が追加されました。

本研究会活動について

今年度の定例会は、Covid -19 のため、オンラインに切り替えたところ、地方からの参加だけでなく、海外からの参加も増え、興味深い情報交換の場となりました。また、8 月には日本で開催された MHB 母語継承語バイリンガル学会の海外継承日本語部会でやはりオンライン発表を行いました。今年 12 月はバイリンガル・マルチリンガル子どもネット(BMCN)で世界をつなぐオンラインパネルディスカッションに参加の予定です。

研究分野では、韓国内の継承日本語教育の実態調査や分析などを、そして、教育実践活動として、継承語教育のオンライン化に伴う教育方法の研究や資料の提供、オンライン教育の実践などを進めております。

また、本研究会では初めての試みとして 2020 年 11 月に継承日本語を学習している子どもたちの、スピーチ大会[2]を予定しており、大会が継承語教育を行っている自助グループの連携や同じような環境の子どもたちの活動やつながりを深める機会になることを期待しています。

継承日本語教育は、国際結婚の増加やますます複雑になっていく国際社会必要とされている分野です。本研究会は、韓国社会に生きる日本にルーツを持つ子どもたちが、日本をルーツに持っていることを幸せと思えるように、そして、願わくば今後の日韓関係の礎となる人材へと成長していくことができるよう願いながら活動を続けております。

皆様のご理解とご助力をお願いいたします。

---

[1] 引用 https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92327701.html

[2] 「第一回継承日本語スピーチ大会in韓国」詳細: http://krkeishougo.net

🕮 韓国 OPI 研究会 🕮

韓国 OPI 研究会では、今年の春ごろから毎週金曜日の午前中に zoom によるオンラインでのスタディーを行っています。使用するテキストは牧野他(2020)『OPI による会話能力の評価ーテスティング、教育、研究に生かすー』であり、これまで OPI の構成や判定の仕方、インタビューの留意点、ACTFL プロフィシェンシー・ガイドラインなどについて勉強し、現在は OPI の研究への生かし方について読み進めています。

参加者は 10 名前後で、テスターの資格の有無にかかわらず、テキストをお持ちで OPI について興味・関心のある方であれば、どなたにでもご参加いだいています。

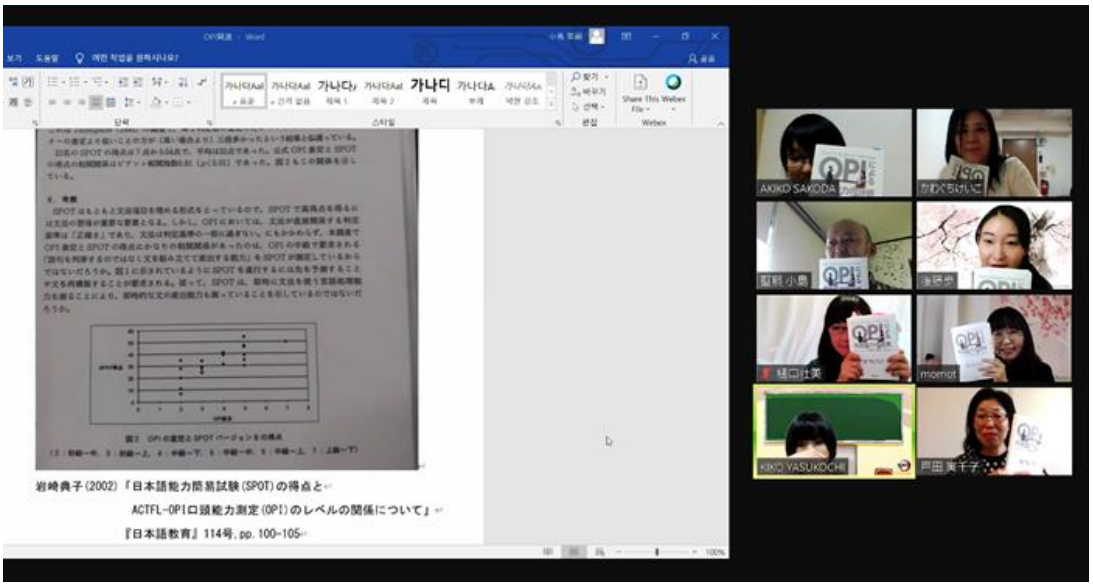
スタディーでは、テキストを読み進めながら、参加者の疑問点や問題提起を通してディスカッションしたり、コメントしたりしています。また、スタディーのテーマや内容に関するインターネット上の情報や論文、書籍等の情報共有も行っています。

今後もスタディーを継続する方向で進めていますが、さらに日本の各地方の OPI 研究会とも相談しながら、OPI に関する合同勉強会が実施できるよう、様々な可能性について検討しております。

本研究会のスタディーにご興味・ご関心がおありの方は、以下研究会のメールアドレスにご連絡ください。

韓国 OPI 研究会　メールアドレス:kankokuopi@gmail.com

鎌田修・嶋田和子・三浦謙一(編著)牧野成一・奥野由紀子・李在鎬(著)(2020)
『OPI による会話能力の評価ーテスティング、教育、研究に生かすー』凡人社



編集委員会

【63 輯編集委員会】

・第 1 次 編集委員会 (2020. 2. 3. 高麗大学 文科大 320 号室)

1) 第 63 輯 投稿論文確認及び報告 (21 編)

2) 第 63 輯 投稿論文審査委員選定

3) 第 63 輯 審査日程論議

4) 第 63 輯 投稿論文審査依頼

・第 2 次 編集委員会 (2020. 2. 17. オンライン)

1) 第 63 輯 審査進行確認

・第 3 次 編集委員会 (2020. 2. 19. 高麗大学 文科大 320 号室)

1) 第 63 輯 投稿論文審査結果報告及び確認

2) 第 63 輯 投稿論文審査の結果、13 編の掲載を決定

3) 第 63 輯 審査結果通知及び投稿者修正依頼

・第 4 次 編集委員会 (2020. 2. 27. オンライン)

1) 第 63 輯 投稿者修正内容確認

2) 英文要旨監修依頼、チェクサラン編集依頼

・第 5 次 編集委員会 (2020. 3. 5. 図書出版チェクサラン)

1) 第 63 輯 1 次刊行作業経過確認

2) 第 63 輯 1 次刊行作業及び校正作業

・第 6 次 編集委員会 (2020. 3. 10. オンライン)

1) 第 63 輯 最終校正作業

2) 第 63 輯 印刷依頼

3) 編集委員会今後の日程確認

・『日本語學研究』第 63 輯 発行 (2020. 3. 20.)

【64 輯編集委員会】

・第 1 次 編集委員会 (2020. 4. 24. 高麗大学 文科大 320 号室)

1) 第 64 輯 投稿論文確認及び報告 (16 編)

2) 第 64 輯 投稿論文審査委員選定

3) 第 64 輯 審査日程論議

4) 第 64 輯 投稿論文審査依頼

・第 2 次 編集委員会 (2020. 5. 11. オンライン)

1) 第 64 輯 審査進行確認

・第 3 次 編集委員会 (2020. 5. 19. 高麗大学 文科大 320 号室)

1) 第 64 輯 投稿論文審査結果報告及び確認

2) 第 64 輯 投稿論文審査の結果、11 編の掲載を決定

3) 第 64 輯 審査結果通知及び投稿者修正依頼

・第 4 次 編集委員会 (2020. 5. 27. オンライン)

1) 第 64 輯 投稿者修正内容確認

2) 英文要旨監修依頼、チェクサラン編集依頼

・第 5 次 編集委員会 (2020. 6. 5. 図書出版チェクサラン)

1) 第 64 輯 1 次刊行作業経過確認

2) 第 64 輯 1 次刊行作業及び校正作業

・第 6 次 編集委員会 (2020. 6. 10. オンライン)

1) 第 64 輯 最終校正作業

2) 第 64 輯 印刷依頼

3) 編集委員会今後の日程確認

・『日本語學研究』第 64 輯 発行 (2020. 6. 20.)

【65 輯編集委員会】

・第 1 次 編集委員会 (2020. 7. 17. オンライン)

1) 第 65 輯 投稿論文確認及び報告 (16 編)

2) 第 65 輯 投稿論文審査委員選定

3) 第 65 輯 審査日程論議

4) 第 65 輯 投稿論文審査依頼

・第 2 次 編集委員会 (2020. 8. 6. オンライン)

1) 第 65 輯 審査進行確認

・第 3 次 編集委員会 (2020. 8. 7. オンライン)

1) 第 65 輯 投稿論文審査結果報告及び確認

2) 第 65 輯 投稿論文審査の結果、10 編の掲載を決定

3) 第 65 輯 審査結果通知及び投稿者修正依頼

・第 4 次 編集委員会 (2020. 8. 21. オンライン)

1) 第 65 輯 投稿者修正内容確認

2) 英文要旨監修依頼、チェクサラン編集依頼

・第 5 次 編集委員会 (2020. 9. 2. 図書出版チェクサラン)

1) 第 65 輯 1 次刊行作業経過確認

2) 第 65 輯 1 次刊行作業及び校正作業

・第 6 次 編集委員会 (2020. 9. 7. オンライン)

1) 第 65 輯 最終校正作業

2) 第 65 輯 印刷依頼

3) 編集委員会今後の日程確認

・『日本語學研究』第 65 輯 発行 (2020. 9. 20.)

『日本語學研究』論文投稿案内

『日本語學研究』投稿規定

▣ 投稿規定

第1条(学会誌発刊日程)

	論文投稿締切日	学会誌発刊日
第1回発刊	前年度12月31日	3月20日
第2回発刊	3月31日	6月20日
第3回発刊	6月30日	9月20日
第4回発刊	9月30日	12月20日

①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。

②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条(投稿資格)

①原則的に本学会の会員に限る。

②招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。

③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条(投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条(論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならず、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条(掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

第6条(分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条(投稿論文受付)

①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(http://jlak.jams.or.kr)から提出する。

②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。

③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の幹事が記入の有無を確認する。

第8条(審査)

招請論文を含む全ての投稿論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員1人又は当分野の専門家が含まれることを原則とする。

第9条(審査料及び掲載料)

①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。ただし、招請論文は審査料および掲載料を免除する。

②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。

③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。

④審査料は論文投稿締切日までに、掲載料は掲載用原稿の提出締切日までに英語要旨文校正費2万ウォンとともに入金しなければならない。

第10条(校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条(別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

第12条(著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、該当する論文の著作権は、オンライン・オフラインともに本学会に帰属する。

第13条(その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

〈付則〉

・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2019年12月06日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2020年02月21日から改訂・施行される。

『日本語學研究』投稿要領

▣ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿はアレアハングルを使用して作成することを原則とし、アレアハングルで入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、アレアハングルを使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に"(第1著者、交信著者)"と明示する。

③要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。(例 : 音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学(Other Japanese Studies))

⑤キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

⑥ 本文

⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김정수(2003)「한일어 조사대조」『일본어학연구』6 한국일본어학회 pp.1-5

____(2004)「일본어 대우표현의 특징」『일본어학연구』10 한국일본어학회 pp.1-5

高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』麦書房 pp.1-5

Rakoff,L.(1973) Language and Women's Place. Language in Society, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に〈図1〉、〈表1〉のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。

(例: http://www.jlak.or.kr/ (検索日: 2014.3.20))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

▣ 審査料及び、掲載料入金要領

[要旨発刊費]

■入金期限:学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■金額: 10,000ウォン

[審査料]

■入金期限:論文投稿締切日

■金額: 60,000ウォン

[掲載料]

■入金期限:掲載用原稿の提出締切日

■英語要旨文校正費: 2万ウォン(投稿者負担)

■金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文 : 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

[入金口座]

■口座番号 : 国民銀行 014301-00-002268 (殷守希〈韓国日本語学会〉)

※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎　審査料)

［審査及び掲載用論文提出先］

本学会オンライン投稿システム(http://jlak.jams.or.kr)から提出する。

▣ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■種類：使用者定義, 幅170, 縦240

■余白：上 20, ヘッダー10, 下 10, フッター0, 左 15, 右 15

2.論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

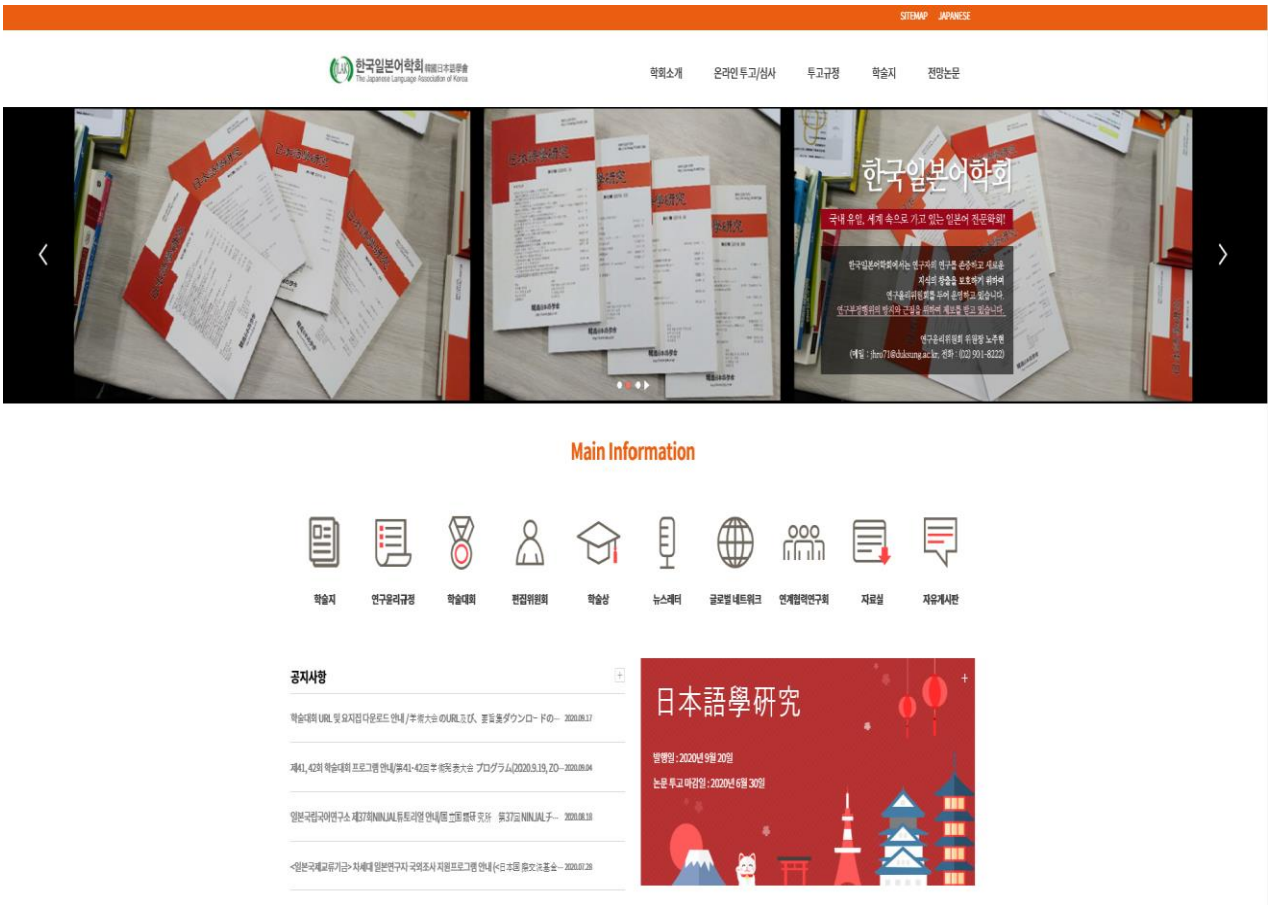
■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落　アウトデント　12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

＊論文作成例示を参考にすること。

学会ホームページのご案内

韓国日本語学会ホームページでは、以下のような多様なサービスをご提供しています。

1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語學研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨集ダウンロード
5. その他本学会関連情報



学会ホームページ URL

http://www.jlak.or.kr/

한국일본어학회

ニュースレターでは、会員の皆様の近況及び、お知らせを掲載しています。

記事の掲載をご希望の方は、メール (jlak123@hanmail.net) までご連絡ください。

■ 학회사무국	■ 学会事務局
〒04763 서울특별시 성동구 왕십리로 220 한양사이버대학교 일본어학과 황영희 교수 연구실 010-7450-4055 (研究編集事務局長：박혜진) 010-2893-2042(学術事業企画事務局長：장윤아) 010-7457-7001(教育広報事務局長：나카무라유리)	〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室 010-7450-405 (研究編集事務局長：朴慧眞) 010-2893-2042(学術事業企画事務局長：張允娥) 010-7457-7001 (教育広報事務局長：中村有里)
E-mail：jlak123@hanmail.net	Homepage：http://www.jlak.or.kr